

はじめに

この実践事例集は、子どもたちが自ら人、自然、もの、出来事に意欲的に関わる体験により「科学する心」が生まれ、健やかに成長・発達することを願い作成いたしました。

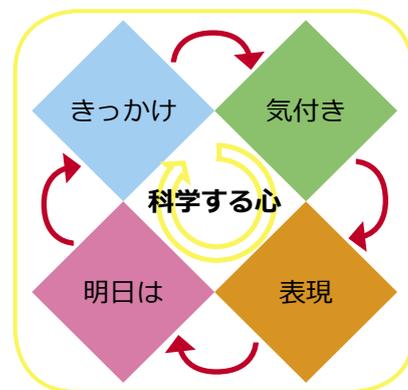
子どもの姿に注目する4つの章

子どもたちの体験の内容や質を把握するために、焦点を当てやすく、手がかりになる言動に注目できるように、「**きっかけ**」「**気付き**」「**表現**」「**明日は**」の4つの章から主題に繋がる事例を挙げています。

例えば子どもたちは

人、自然、もの、出来事に関わるのが「**きっかけ**」になり、**感性が育まれる体験**をします。そして、興味の対象に心が動く「**気付き**」をします。心を動かした興味の対象に様々な関わりをして遊ぶ子どもたちは**主体性が育まれる体験**をします。遊びを楽しむ過程で、考えや思い、感じたことや発想したことを「**表現**」する子どもたちは、**創造性に繋がる体験**をします。そして更に、自ら新たな考えや思いをもち、実現するために目当てや見通しをもち「**明日は**」どのようにしたいのか考えたり準備をしたりします。

子どもたちは遊びを繰り返したり展開したりすることで、この巡りを繰り返し、「**科学する心**」が育まれる体験をします。



「科学する心」が育まれる場面

「科学する心」に結び付く体験や変容を保育者が掴む手がかり

この4項目のどの場面からも、「科学する心」が育まれる子どもたちの「主体性」「感性」「創造性」の芽生えを把握することができます。

きっかけ…子どもたちが自ら始める遊びの姿 **豊かな感性が働く環境、主体的な生活**

子どもたちは遊びや生活を楽しむために、自ら人や自然、もの、出来事に様々な状況で関わります。興味をもったり不思議さを感じたりするなどの“心の動き”がきっかけになる姿があります。



気付き…繰り返し関わる姿 **みずみずしい感性で主体的に繰り返し関われる環境**

興味・欲求や必要感、不思議や疑問、遊びへの考えなど、子どもたちが積極的に対象に関わる姿があります。この関わりは毎日繰り返すなど日常的であり一見見逃しがちな姿や、様々な心の動きや言動を伴う姿など多様です。その繰り返し関わる姿の中で、気付いていることの内容を読み取ることが手がかりになり、「科学する心」が育まれる姿を把握することができます。

表現…体験が深まり広がる姿 **感性、主体性、創造性を発揮し自在に関われる環境**

メモや記録に残せる姿です。子どもの活動する姿だけでなく、表現されていることやモノからも、体験の内容を読み取ることができます。重要な手がかりであり、「科学する心」が育まれる体験の積み重ねを読み取ることができます。

明日は…成長が明らかになる姿 **遊びへの課題や見通しをもち、感性、主体性、創造性を発揮して自分たちで生活を創りだせる環境**

子どもたちは、自分たちで遊びを展開する喜びを味わうことにより、遊びへの考えや実現したい目当てをもつようになります。そのために問題や課題に直面しても、遊びが中断しても、その後の遊びの見通しや自分の行動を考えたり、楽しみにしたりするようになります。

このような遊びを進める過程から、「科学する心」が育まれる体験を読み取ることができ、体験の積み重ねや変容が明らかになってきます。

本事例集で取り上げた事例では、子どもたちが能動的な学びをし、遊びの中で学ぶ喜びを味わっています。まさに、現在の学習指導要領の改定の方向性である「アクティブラーニング」「プレイフルラーニング」など子どもたちの姿を大切に保育・教育に結び付けています。